

平成 23 年度 第 1 回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成 23 年 5 月 7 日（土）午後 5 時から午後 7 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：玉野委員、岳委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

（1）事務局から参考資料の趣旨を下記のように説明された。

・未知の時代に生き抜くための力を高等教育で培う必要がある、教員の追体験の押しつけをしてはいけない。自分の言葉で語り、相手の心の痛みを感じ取り、自分の判断力をもとに行動できるような総合力を育む必要があり、そのために、これからの若い人には基礎的な力が必要。生徒同士の対面学習、世界中の学識ある人々から学ぶ。単位をとっても社会で活用出来なくては意味がない。国民的議論をおこすべきと説明された。

・明日の日本を築くのは個の力、組織や社会が目指す方向を適切に判断できる人たちの力、高等教育は機能してきたかとの投げかけがあった。大学教育の見直しを考えるべき。学生が未来を切り開く力を獲得することに大学が責任を持つことが必要。これからの未来を切り開くために、大学はどうデザインしたら良いか再考して見直しの時期である。

・中学生は考える力がないとの結果から、25年度から総合的学習で考える学びのプロセスをつくることをはじめる、探求的な学習、協同的な学習を重視すること。このレベルは大学が最低限度実施している必要がある、スパイラルで展開される。

・キャリア教育、職業教育について、中央教育審議会の答申で新しい大学をつくる。演習が4割で企業内教育のような大学をつくる。新しい称号や編入学も検討。5～6年で法律になる（全国専修学校等）。教養教育と専門教育を融合したりベラルアーツのような授業デザイン。

・大学として質保証できるような、身につけて活用できる振り返りから、到達度が把握できるような授業デザインが5年先では期待されている。学びを持続化させる、他の授業と連結された授業づくりや、振り返り学習、4年のレベルで身に付いていれば良い。到達度について外部試験制度、卒論で面接方式の評価なども避けて通れないのではないかと。学生の振り返り学習のためにポートフォリオなどのプラットフォームで学びの持続可能な仕掛け（ファシリテート）が必要ではないかと。本質的な授業の連携が必要なのではないかとの説明がされた。

（2）参考資料を受けて、下記のように意見交換がされた。

・ユビキタス時代で情報インフラを活用しない手はない、図書館より手軽に利用できる時代。積極的に利用した教育で、教師、学生の相互関係が大切、インターネット大学ではだめとの記事が紹介された。押しつけでなく、自ら作り出す社会。勇気を持って立ち向かう姿勢が必要。技術系大学が求めるものは、均一性、均一化にすることで伝えられることもある。大学の技術系が専門学校化、資格社会になっていて、電気系は電検資格が取れるようにすると身動きが取れなくなるのが現状。個別化できるかにすると、技術教育でどこまで可能なのか、バランスが難しいと考える。積み上げ方式は残る、改善はしてきたが、くさび型構造のやり方にはなっているが、どこまでできるか課題、振り返りができるシステム含めて融合策の可能性はある。

- ・授業のイメージとして、指導要項ではなく、学びが思うようにできていない部分を凌駕すること考えてほしい。
- ・情報の一元化でデータベースを構築して、どこから見るかのスコープ（仮想のコンピュータで見えるようにする取り組み）。スコープとして教職、学生の利用、キャリア指導の取り組みを進めている。どこにいても学習できる仕組みを考えている。就職情報のネット化、最初は紙でスタート、便利さをアピール実感させる取り組みを実施した。仕組みづくりとしてクラウド化すれば大学間でも利用できる

(3) モデル案について、下記のように議論がされた。

- ・奇想天外な授業デザイン、メリハリが必要。
- ・授業のねらいについて絞り込みが難しい。たとえば、演習実習で座学にも回路ある、技術者倫理的なものは PBL になるが電磁気はシュミレーションなど一捻りしないと伝わらない。絵を入れた教科書は冗長的、文字教科書なら一行だが理解されない。現実には実験をすれば身に着くが 2 時間かかり、座学なら一行でテスト対策にはなる。
- ・均一化の授業は多く考えられているのではないか。大学としてあまり関与していない部分をデザインしてはどうか。
- ・インターネットやトランジスタの例から、求められる仕組みでクラウド化が進んでいるが、個人情報セキュリティの確保が課題である。
- ・新しい授業デザインとして安心安全の目標 3 が狙えないか、到達度③を目標にモデルを作れないか。理想的な授業を作れないだろうか。または 4 を狙えないだろうか。
- ・今までは専門的教育だったが、社会的に求められている人間力を向上させるようなことに向けてキャリアデザイン含め電気通信に特化して取り入れたらどうか、情報倫理などのことを含められないかのアイデアが出された。→到達目標 4 について卒論研究をイメージしてはどうか。プロジェクトで複数課題から選ばせる、グループで問題解決させる取り組みなどどうか、振り返りを含めて進められないか。
- ・特に、授業のねらいについては、何で必要なか背景が必要（うまくいっていないので提案したいなど）、計画は 4 年間のスパンで身につけることにする。
- ・チームベースラーニングでバーチャルな Web グループでの答えを解く、問題やらせて、振り返らず取り組みはどうかというアイデアが出された。グループワークで ICT を組み込んだ取り組みはできないか、友人同士で教え合う取り組みはできないか。
- ・大学で新しい課題にチャレンジする視点で取り組み、自分たちの学びを社会に発表、反応を見るようなスタイルができないか。
- ・グローバル化、大きなものから小さなマイクロのものまで多様化に対応しなくてはいけない、多面的視点が必要になっているとの意見が出された。

2. 次回までの宿題

「学士力実現に必要な ICT 活用の具体的な検討について」の教育モデルの例を 2 件準備することとした。

V. 次回の開催日程

平成 23 年 6 月 4 日（土） 14 時 30 分から 16 時 30 分まで 事務局会議室